

化学物質管理センターでは、試験が行われていない化学物質の反復投与毒性をカテゴリーアプローチで評価することを支援する有害性評価支援システム統合プラットフォーム(HESS)を開発し、本年6月に無料で一般公開しました。

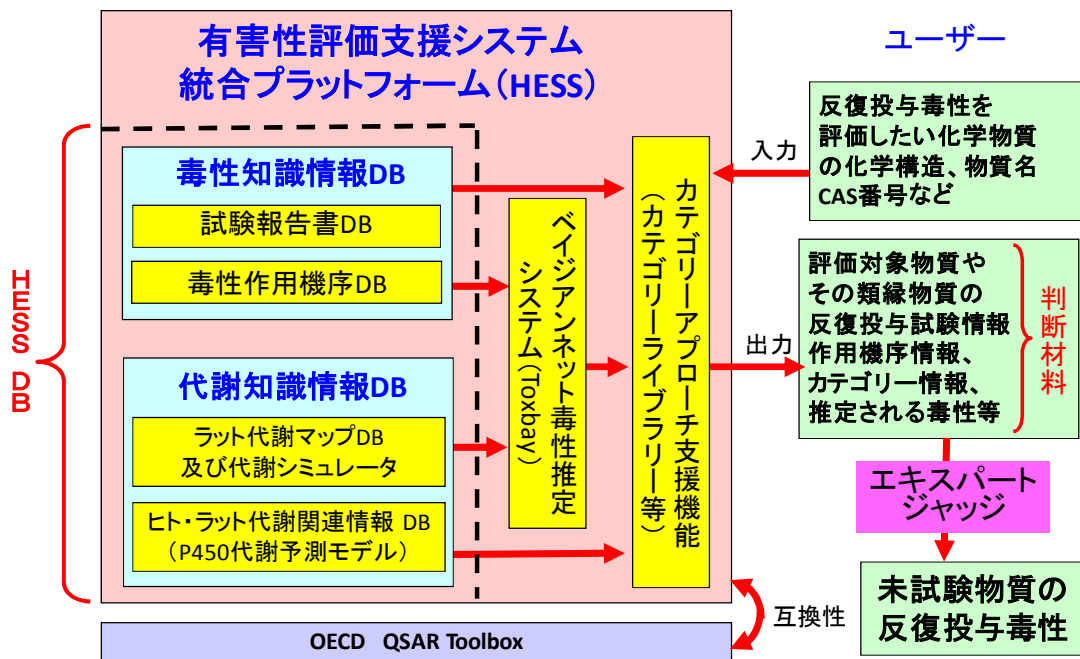
はじめに

有害性評価支援システム統合プラットフォーム(HESS)は、NEDO/METI受託業務「構造活性相関手法による有害性評価手法開発」において開発したカテゴリーアプローチにより、反復投与毒性のデータギャップ補完を行うことを支援するシステムです。HESSは、下記のホームページで無料でダウンロードすることができます。

<http://www.safe.nite.go.jp/kasinn/qsar/hess.html>

HESSは、OECDのQSAR Toolboxと互換性があり、HESSのデータベースの一部や反復投与毒性のカテゴリーは、OECD QSAR Toolboxに搭載されています。

HESSの構成



HESSの想定利用方法

- 1. 化学物質審査規制法での利用**
リスク評価に必要な反復投与毒性の判断材料の補完。新規化学物質の審査支援情報の提供。
- 2. 事業者の自主的な有害性評価での利用**
安全な化学物質を効率良く開発することを支援（ユーザー独自のデータを追加・解析することが可能）。
- 3. REACHの届出、審査での利用**
OECD QSAR Toolboxへの搭載による利用の促進（評価手法の国際整合性を確保）。

HESSの運用方針

- ユーザー様からの問い合わせに随時対応。
- 基本的な操作方法を習得するための無料の講習会を定期的実施（次回は11月頃に実施予定）。
- 年2回のデータ更新を実施（化審法既存点検データ等）。
- ユーザー様からのご要望を反映したシステムの改良を計画中。